

碩心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可
 神奈川 碩 会 発行

8年4月 逗葉大合	現在 4月地区計	会員数 157名 218名 44名 419名	8年4月 根編中	(285号) 行者 岳者 集者 岳愛
--------------	-------------	------------------------------------	-------------	--------------------------------

行事予定

○第29回逗子市詩吟舞春季発表会

日時・5月12日(日)9時30分より

会場・逗子市立図書館ホール

○県本部年令別吟道大会

日時・5/25(土)9時30分(60才〜69才)
 6/1(土)9時30分(70才以上)

会場・平塚農業会館

昇伝認許

おめでとございます。

(初伝 6名) (4月1日付)

403 越水 悦子(悦泉) 402 田口 綾子(綾泉)

401 丸山 節子(映泉) 400 中尾 邦廣(廣泉)

399 牧野江佐子(江泉) 398 門間 十四(志泉)

(中伝 4名) (4月1日付)

356 新井 国夫(國山) 355 大井 留治(治山)

353 鈴木 千里(里山) 350 水留 祐子(穰山)

(奥伝 11名) (4月1日付)

282 水野 みえ(湖風) 275 高見 陽子(陽風)

281 須藤登久子(葉風) 280 鈴木 祐子(祐風)

279 大庭 幸子(幸風) 278 伊東 和子(和風)

277 田中二三子(絵風) 276 梅原 幸枝(幸風)

274 松岡 節子(杏風) 283 澁橋 サヨ(正風)

273 原田 義男(義風)

(準師範 2名) (4月1日付)

191 小野 祥風 111 伊藤 峰岳

(師範 1名) (2月11日付)

80 宇都宮 徳岳

県本部 吟行会のお誘い

木村岳風記念館新館が完成を機に、県本部として、記念館見学、墓参を目的に、左記コースの吟行会が計画されました。お気軽に多数御参加を。(申込方法他来月号に記載)

日時・8年11月9日(土)〜11日(月)二泊三日

旅行費・五万五千円

コース・左記の通り(バス利用)

(一日目)

横浜、横須賀、平塚各地⇨横浜IC⇨御殿場⇨河口湖⇨諏訪⇨岳風記念館⇨墓参⇨恵那峡

(二日目)

恵那峡⇨藤村記念館⇨下呂温泉合掌村⇨高山市内⇨飛騨民族村⇨郡上八幡

(三日目)

郡上八幡⇨大滝鍾乳洞⇨犬山城⇨小牧⇨浜名湖⇨足柄SA⇨各地解散

碩心会支部別会員数一覧表
(平成8年4月現在)

(逗子地区)			(葉山地区)			(大船地区)		
1 2 3 4 5 6 7 8	逗子 榑沼 銀真 若悠	5 5 8 7 5 0 7 4 1 1 4 1 1	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	堀一 吟星 唐下 吟長 上瀧 風諷 東伏	7 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 2 3 4	大 大 戸 松	1 4 3 8 9 1
8支部			13支部			4支部		
157名			218名			44名		
合計			25支部			419名		

三井先生・指導勇退

三井岳龍先生には長年熱心に吟道指導に尽くしてこられました。高齡により三月いっぱい指導を退任、四月より左記の通り交替することになりました。長い間御苦勞様でございました。今後も健康に御留意下さいませ。

(交替指導者)

桜山A支部 鈴木岳抄
逗子B支部 村田岳瀨

山の根支部解散

又同じく三井先生の担当であった山の根支部が、八年三月で解散することになりました。一部の方は他支部へ移籍されましたが、高齡者の方々は残念ながら退会されました。

はじめての詩吟

逗子B 磯村朋岳

昭和49年3月末、母に連れられて「なぎさ会館」へ行きました。私は二十代、何しろ詩吟なんて聞いたこともなかったもので、本当に不安でした。まず「なぎさ会館」を見てびっくり。「えー！ここで何するの」、中に入っ

て又びっくり。まるで寺子屋のような机、薄暗い部屋、そして十人位集まった人は、みんな私よりずーっと年上の方でした。

三井先生と一緒に、全員が大きな声を出して、何やら難かしい漢詩をすらすらと読んでいます。「早く帰りたい」と母に言っても取りあつてもらえません。そのうち私の番が廻ってきました。ただ私は母について行っただけで、詩吟なんて習うつもりは無かったです。何が何だか夢中でした。多勢の中で大きな声を出すなんて、今思い出しても胸がどきどきです。

そしてあれからも二十年：信じられない気がいたします。昨年春、十段も取らせていただき、今は、母や三井先生に感謝しています。

三井先生には大変お世話になりました。一から十まで三井先生に教えて戴いたので、から、ほんとうに有難く思います。今年、三井先生が逗子B教場を去ることになったのは、本当に残念です。先生ありがとうございました。素晴らしい教えを忘れずに、これからも詩吟を長く愛して、楽しみたいと思っています。三井先生のように……。

春の審査にのぞんで

吟 甫 鈴 木 里 泉

「春三月」といっても、まだまだ風はとて
も冷たい。今日三日、春の審査を無事に終
ることができてひと息ついております

朝八時半、長女夫婦が車で、会場の逗子図
書館ホールまで送ってくれました。会場には
早くも、多くの先生方や、役員の方々がいら
していました。おなじみの先生方にご挨拶
をして、受付をすませましたが、何故か緊張
感が身体の中を走ります。いつも教場で練習
をしている時のように、リラククスしてやれ
ばいい…と思いつながら、足の先からふるえて
きました。初段、二段、初伝、三段、四段…
そして今日は中伝を受ける日。何回か審査会
を通ってきたのに…。

沼田先生始め、渡辺先生、教場の先輩達の
励ましが頭をよぎります。落ちついて…落ち
ついて…と自分に言い聞かせながら、手のひ
らに「人」という字を書いてみる。もう精
いっぱいやるしかない。

審査が終り、講評を諸先生方から聞かせて
いただき、口のあけ方、吟ずる時間の事等、

諸々のお話がありました。そのひとつひとつ
がとても参考になりました。

今日から又次の第一歩が始まります。これ
からも先生方のご指導を賜わりながら、精進
してゆきたいと思っております。

吟道に精進できる俸せ

吟 秀 星 野 寿 泉

半年振りに逗子図書館ホールの急な階段を、
一段一段手摺りにしっかりと縋りながら上つ
てゆきます。年寄りにはかなり骨の折れるこ
とです。エスカレーターかエレベーターがあ
ればと勝手なことを思います。今日は審査の
日で、三々五々多くの方がこの長い階段を上
ってゆかれますが、どの人のお顔も笑顔で、
希望に輝やいてみえます。不束ながら、私も
その一人でございます。

私はこの日を迎えますこと四度目ですので、
会場に入りましてまず先生方の生き生きされ
たお顔、お姿をうかがい、又席に居並ぶ方々
もほお顔見知りが大分多くなりました。な
んとなく暖かい気分にも包まれ、自ずと和の精
神になりますから不思議なものです。この

道に入って本当に良かったと沁々感謝致して
おります。

私は老人ホーム葉山清寿苑のお世話になり、
五年目でございます。その間詩吟クラブが発
足しましてメンバーに入れて頂きました。
詩吟を習うのは初めてでして、仲々むずかし
いと思いつながらも、苑の施設長でいらつしや
います加藤芳岳先生の、おやさしい御熱心な
御指導で、会員は皆、毎度その時間を待ちこ
がれて勉強させて頂いております。その上斯
道の家匠加藤岳相先生の御指導を仰ぎます機
会に恵まれ、その都度励まして頂いておりま
すので、とても心強くおすがりさせて頂いて
おります。

おかげ様で今回の審査で三段の許証を頂戴
することに決まりまして、まことに嬉しうご
ざいます。この苑の満ち足りた生活の中で、
更に吟道に精進出来ますのは、勿体ない私の
俸せでございます。やがて季節は花、花とい
えば桜、桜といえは桜花の詞、心もはずみ、
会員の合吟が苑内に流れるのも間近です。静
まり返った苑の深夜、ふと目覚めて、図書館
ホールの長い長い階段を上る自分の姿を想像
しますと、まるで今は夢のようでございます。

児島高德桜樹に
書するの図に題す

齊藤 監物

踏破る千山万嶽の煙

鸞輿今日何れの辺にか到る

単蓑直に入る虎狼の窟

一七深く探る鮫鱈の淵

報国の丹心独力を嗟き

回天の事業空拳を奈せん

数行の紅涙兩行の字

桜花に付与して九天に奏す

(児島高德)

備後の人、(通称・備後三郎)。元弘二年(一一三三)三月、北条高時によって隠岐に流されようとする後醍醐天皇を、途中で奪還しようとして、舟坂山に義兵を集結したが、鸞輿は転じて山陰に入り、杉坂に到着した時はすでに通過、失望した兵はことごとく散った。高德はやむなく、単身で因の荘(津山市)の行在所に潜入、桜の幹を削り、

天 莫 空 勾 踐

時 非 無 范 蠡

の十字の詩を書き、御心をお慰め申しあげた。

(齊藤監物)

幕末の勤皇家。常陸(茨城)の人。文武の修養深く、藤田東湖に師事して学問を修め、特に詩歌に長じていた。水戸藩主徳川斉昭に仕え、弘道館の神官にも抜擢された。

桜田門外の変には、同志十七人とともに、直弼の登城を桜田門外で待ちうけ襲撃。監物は重傷を負い、同志は細川越中守邸に幽閉され、深傷の佐野竹之助は同日死し、監物は六日後の三月八日に没し、竹之助と同じく小塚原に棄てられた。享年39才。

~~~~~ 8 ~~~~~

二月のお稽古に徳川斉昭の「弘道館にて梅花を賞す」、そして三月に入り、水戸の志士が井伊直弼を襲った「無題」、つづいて、その時直弼を襲った十八人の志士の一人、齊藤監物が作詞の「児島高德」をとりあげました。

舟坂山や杉坂と

みあと暮いて因の荘

離宮をいかにきわめんと

桜の幹に十字の詩

天勾踐を空しうする莫れ

時に范蠡無きにも非ず

懐かしい小学唱歌もなれ出るお稽古でした。

(住所変更)

127 小西 勝岳 逗子市久木九一四一二〇

(新) ☎〇四六八一七三一〇五二

(入 会)

449 有友 嘉紀 葉山町堀内二〇二一

(東伏見) ☎〇四六八一七五一一〇五〇七

450 福田喜枝子 横浜市南区大岡一―一―

(真 澄) ☎〇四五―七三―九八二二

451 高田 君子 逗子市池子二―三〇―九

(勲・D) ☎〇四六八一七一一一〇二

452 大塚 竹要 葉山町一色二〇九六

(下山口) ☎〇四六八一七五一一四二三

453 鈴木 豊子 葉山町一色一五〇六

(勲・D) ☎〇四六八一七五一一八五七

(退 会)

264 松尾 眞山(沼間) 岡田 仁山(松和)

354 和光 江泉(吟甫) 381 久能 義弘(真澄)

三月号で寄稿のお願いを記載いたしましたところ、早速皆さんから原稿をお寄せいただき、ありがとうございます。頁数その他の都合で一部来月号に掲載させていただきましたので御了解願います。今後共、皆さんの寄稿をお待ちしておりますので御協力の程。